

政治プロセスの効率性に関する考察

奥井克美
追手門学院大学

報告要旨

経済政策は政治プロセスを経て決定される。政治プロセスは望ましい経済政策を生み出すことができるのかを本稿では考えたい。さまざまなタイプの政治プロセスの中から、本稿でとりあげるのは民主主義政治プロセスである。デモクラシーは望ましい結果を実現できるのだろうか。

ここで特に注目したいのが、Wittman (1995) と Caplan (2007) の議論である。政治経済学の分野において従来まで政治プロセスの問題点が指摘されることが多かった中であって、Wittman はデモクラシーが効率的な結果を生み出すと主張し、注目を集めた。Caplan はこれに異を唱え、投票者は非合理的な行動をとるので、デモクラシーは悪い政策を選ぶと反駁した。

本稿では、両者の違いに着目して、デモクラシーが効率的な政策を生み出すかどうかを検討する。デモクラシーの重要な要素は選挙による意志決定であろう。本稿では特に、選挙結果が効率性なものになるかどうかに関心をあてる。